



バーゼルワールド2018

パテック フィリップ ジュネーブ

パテック フィリップ、世界中どこでも現地の時刻を音で知らせる初のミニット・リピーター、ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531R モデルを発表

パテック フィリップのコンプリケーテッド・ウォッチのポートフォリオの中で、ミニット・リピーターとワールドタイムは格別な地位を占めている。チャイム機構を備えたマニュファクチュールパテック フィリップの時計は数十年以来、たぐい希な音響、多彩なモデル、他のコンプリケーション機能との洗練された組み合わせにより、常に最高の評価を与えられてきた。またクロワゾネ七宝の文字盤を備えたパテック フィリップの著名なワールドタイムは、オークション市場で最も追い求められるタイムピースのひとつである。ジュネーブのマニュファクチュール、パテック フィリップの技術陣は、初めてこの2つの機能をまったく独自の方法により統合した。ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531R モデルは、常に12時位置に表示されているタイムゾーンの時刻（時、分針が表示する現地時刻）に対応するチャイムを鳴らすという特徴を備えているのである。

パテック フィリップ技術陣は、グランドマスター・チャイムのような革新的なコンプリケーション機能を開発したり、これらの機能を独自の方法で組み合わせるといった技術分野において、決してチャレンジを恐れない。さまざまな機能を含む機構をひとつに統合するという意味で、ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531R モデルは完璧な例となる。24タイムゾーンの時刻を表示するこれまでのミニット・リピーターは、着用者が自国からどれほど離れた場所においても、あらかじめリュウズで合わせた出発地の時刻しか音で知らせることができなかった。パテック フィリップの5531R モデルは、世界のどの地点であれ、着用者が現在いる場所の時刻を秒単位の精度によりチャイムで知らせるのである。

地球上のあらゆるタイムゾーンの時刻を同時に表示するワールドタイム

パテック フィリップのワールドタイムは、70年以上前から高級時計において確固たる価値を誇っている。同社は、ジュネーブの独立時計師ルイ・コティエのアイデアが持つ可能性を直ちに理解した。彼は1930年代、文字盤外周またはベゼルに都市名を記載することにより、世界の24タイムゾーンの時刻を同時に表示できる巧妙な機構を発明した。1999年、パテック フィリップはこのワールドタイムに決定的な改良を加えた。すなわち、新たな特許取得の機構により、ただひとつのプッシュボタンを押す毎に、都市表示リング、24時間表示リング、時針を1時間刻みで同時に回転させてタイムゾーンの変更を行うことを可能としたのである。今回の新たな課題は、このワールドタイム機構をミニット・リピーターに統合し、時計が視覚と聴覚により現在時刻を知らせることができるようにすることであった。こうして誕生したのが、ミニット・リピーターとワールドタイムを搭載したパテック フィリップの新しい自動巻ムーブメント、キャリバー R 27 HU である。

世界のどの地点においても現在時刻をメロディーで知らせる

ワールドタイム・ミニット・リピーターのオーナーにとって、世界の24タイムゾーンの時刻を同時に知るだ



《報道資料》 ページ 2

けでは不十分である。現在いる場所の現在時刻を明確に読み取り、これをいつでも望む時に正確に、パテック フィリップならではの音質によってチャイムで鳴らしたいと思う。パテック フィリップは、以上3つの技術的壮挙を時計史上初めて同時に成し遂げたのである。

ワールドタイム機構を備えたこれまでのミニット・リピーターは、2つのコンプリケーション機能が独立していたため、あらかじめリュウズで合わせた出発地の時刻しか音で知らせることができなかった。ミニット・リピーターが常に現地時刻を知らせることができるようになるためには、都市表示リング、24時間表示リングを含むワールドタイム機構を機械的にチャイム機構とカップリングさせる必要がある。

では通常のミニット・リピーターの仕組みを簡単に復習してみよう。心臓部には、段差の刻まれた3個の《かたつむりカム》がある。時かたつむりカムには12個、クォーター（15分）かたつむりカムには4個の段差が刻まれている。分かたつむりカムは4つの翼を持ち、各々の翼に14個の段差が刻まれている。これらのかたつむりカムのポジションは、現在時刻により常に一義的に決定される。分かたつむりカムは、クォーターかたつむりカムと同軸であり、この2つは一体となって1時間に1回転する。クォーターかたつむりカム上に設けられた1本のピンが、1時間に1度、時かたつむりカムと一体になった12星車を一歯分、進める。ケース左側面のスライドピースを動かすと、これらのかたつむりカムのポジションが、各々に対応するピーク（爪）によって次々に検知され、それに応じて現在時刻の時、クォーター、端数の分に相当する回数分、ハンマーがゴングを鳴らす。例えば5時37分にスライドピースを動かすと、時ピークが時かたつむりカムの5番目の段差を検知し、これによって低音のゴングが5回、鳴らされる。次いでクォーター・ピークがクォーターかたつむりカムの2番目の段差を検知し、これによって高音・低音のゴングの組み合わせが2回（30分に相当）、鳴らされる。最後に分ピークが、分かたつむりカムの3番目の翼の7番目の段差を検知し、これによって高音のゴングが7回、鳴らされる。以上の動きがきわめて微細なスペースの中で、長さ数ミリ、厚さ数十分の1ミリの複雑な形状の構成部品、肉眼ではよく見えないほど微少なピンやスチール製のバネの働きにより行われる。このような顕微鏡的世界をマスターできるのは、高度な技術を持つごく少数の時計師のみである。

ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルに搭載されたキャリバー R 27 HUでは、この仕組みに大きな変更が行われ、革新的な機構と新たな構成部品が加えられた。これらは技術特許により保護されている。分かたつむりカムとクォーターかたつむりカムが一体となり、筒カナ車（分針車）により回転させられる点は変わらない。これに対し時かたつむりカムは、クォーターかたつむりカムによって進められるのではなく、ワールドタイム機構のタイムゾーン車により常時回転させられる。この独自の解決法により、時かたつむりカムをワールドタイムの時刻表示と秒単位の精度で同期させることができる。というのも、パテック フィリップのミニット・リピーターにおいては、チャイムによる時刻表示は秒単位の精度で行われるからである。例えば5時59分49秒までは、時刻は5時59分とみなされ、時が5回、クォーターが2×3回、端数の分が14回、合計25回鳴る。しかしその1秒後の5時59分50秒には、時刻を6時と見なし、時が6回鳴るのみである。常に10秒間早く鳴り始める理由は、チャイムが鳴り終わった時、ちょうど分針の位置が、たった今、音で知らせた時刻に一致するようにとの配慮からである。通常のミニット・リピーターにおいては、秒単位の同期は難しくない。時かたつむりカムは、クォーターかたつむりカムによって瞬時に送られるからである。ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルにおいては、時かたつむりカムが常時回転しているため、困難が生じる。しかしパテック フィリップ特許の機構は、この問題にエレガントで高精度な解決を与えたのである。マニュファクチュール パテック フィリップは、チャイム機構と、これを他のコンプリケーション機能と組み合わせる技術において他の追従を許さぬレベルに達していることを今一度、証明したといえるだろう。



《報道資料》 ページ 3

ケース左側面のスライドピースによりミニット・リピーターを起動させると、時、クォーター、端数の分を鳴らす機構が短時間の間、作用しあい、パテック フィリップならではの音質とハーモニー溢れるリズムによって時のメロディが奏される。微細なかたつむりカム、櫛カム、歯車、レバーが相互に噛み合っている間は、タイムゾーンの変更ができないように、ワールドタイム機構はロックされる。パテック フィリップのすべてのワールドタイムと同じく、2時位置のプッシュボタンを押してタイムゾーンを変更している間、ムーブメントの動きには一切、影響はない。

ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルには、パテック フィリップの他のミニット・リピーターと異なる今ひとつの特許登録された特徴がある。2本のゴング（高音と低音）がムーブメントの地板（メインプレート）ではなく、ケース本体に直接取り付けられているという点である。このことは時計の組立てをきわめて困難にしている。しかし出荷に先立ちすべてのミニット・リピーターの音色の最終判定を行うパテック フィリップ社長ティエリー・スターンにとって「この他に類を見ないグランド・コンプリケーションに、音質においてもはっきり分る違いを与えるために」このさらなる困難は十分に正当化されるものであった。

最高の信頼性と音色を誇るキャリバー R 27 HUは、究極の工作精度による462個の部品から構成され、熟練した時計師によってパテック フィリップ・シールの厳格な認定規準に準拠して組み立てられる。もちろん、パテック フィリップ・シールに定める日差-3〜+2秒に準拠している。さらに驚くべきことは、このムーブメントが22金偏心マイクロローターを受け（ブリッジ）に統合した自動巻機構を備えていることである。マニュファクチュール パテック フィリップの創業150周年を記念して1989年に発表され、パテック フィリップがミニット・リピーター腕時計の流行を再来させるきっかけとなった基本ムーブメント、キャリバー R 27はすでに自動巻であった。キャリバー R 27 HUはその設計から、複雑な構造にもかかわらずきわめてスリムなプロフィールを維持しており、総厚はわずか8.5ミリに過ぎない。

究極のエレガンス

新しいワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルは、ケースのデザインと構造におけるパテック フィリップの技術とノウハウを今一度、立証している。11ミリという厚さにもかかわらず、18金ローズゴールドのケースは、4つのラグに施されたオープンワーク、ベベルカットされたベゼル、サファイヤクリスタル・ガラスの形状という3つの視覚的な特徴により、きわめてスリムでエレガントなシルエットを実現している。パテック フィリップを象徴する手仕上げのギヨシェ装飾《クルー・ド・パリ》がケースの輝きとエレガンスを強調している。《クルー・ド・パリ》装飾は、ケース左側面のミニット・リピーター起動用スライドピースにも施され、完璧なハーモニーを生み出している。これに対し、スライドピースがスライドするケース面は、水平サテン仕上げとなっている。2時位置のタイムゾーン変更用プッシュボタンに施されたポリッシュ仕上げが、さらなる輝きを与えている。サファイヤクリスタル・バックを通して、面取りとコート・ド・ジュネーブを施した受け（ブリッジ）、ギヨシェ装飾が美しい22金偏心マイクロローター、ミニット・リピーターの遠心ガバナーを飾るカラトラバ十字などの精緻な仕上がりを鑑賞することができる。18金ローズゴールドのソリッド・ケースバックも付属しており、サファイヤクリスタル・バックに代えて装着することができる。

希少なハンドクラフトに捧げられた文字盤

長時間にわたる忍耐強い作業の末、完成した18金ゴールドと洋銀の文字盤（都市表示リング、24時間表示リ



《報道資料》 ページ 4

ング、芸術的な文字盤中央)は、パテック フィリップならではの美的完成と比類のない視認性を誇っている。都市表示リングは、シルバー・オパール地の地にブラックで都市名が転写されている。希少な特徴のひとつは、文字盤中央のレマン湖のテーマにちなみ、都市表示リングの中央ヨーロッパ時間を代表する都市名が、2014年、パテック フィリップ創業175周年を記念して発表されたワールドタイム・モデル同様、《PARIS》から《GENEVA》に変更されていることである。24時間表示リングは、昼の部分(午前7時~午後6時)はローズゴールドの地に数字と太陽のシンボルを彫刻し、数字はブラウンに着色されている。夜の部分(午後7時~午前6時)はブラウンに着色され、数字と月のシンボルを彫刻してローズゴールドの地を見せている。文字盤中央には、パテック フィリップのワールドタイムの偉大な伝統に従って、クロワゾネ七宝の装飾が施されている。テーマはユネスコの世界遺産に指定されているラヴォーの葡萄畑の眺望であり、レマン湖には伝統的な帆船が描かれている。デリケートな多数の色彩を用いたこの微細な絵画作品の制作には、およそ2週間が必要である。クロワゾネ七宝は、ゴールドのプレートの上に、モチーフに従って曲げた細い平らな金の線を配置し、いくつもの囲い(cloisons)を作る。各々の囲いの中に異なる色の釉薬を塗り、特殊な炉の中に入れて、高温による色彩の変化に配慮しつつ、摂氏約850度に加熱する。釉薬は何層にも重ねて塗り、一層ごとに加熱する。こうして多種類の透明、半透明、不透明の釉薬の組み合わせにより豊かなニュアンスが与えられ、直径17.1ミリのプレート上にレマン湖の眺望を描いた作品が完成する。5531モデルは、クロワゾネ七宝で装飾されたパテック フィリップ最初で唯一のミニット・リピーターとなる。この象徴的なパノラマを背景に、センターにシャープなファセットを見せた18金ローズゴールドの時・分針が現地の時刻を表示する。繊細なオープンワークを施した時針には、パテック フィリップのワールドタイムに特徴的な《南十字星》のフォルムが採用されている。18金ローズゴールドの折り畳み式バックル付ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド(カラーはブリリアント・チョコレートブラウン)を装着している。

ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルは、パテック フィリップが新たに創作した他に類を見ないグランド・コンプレクションである。ローズゴールドのケース、技術革新とジュネーブの伝統工芸を融合させた文字盤を備える新しいワールドタイム・ミニット・リピーター 5531モデルは、最高の音質、高度な技術、エレガントなデザインのすべてにわたり、マニファクチュール パテック フィリップの偉大な時計製作の伝統を見事に体現しているといえるだろう。





技術仕様

ワールドタイム・ミニット・リピーター 5531 モデル

ムーブメント：	キャリバー R 27 HU 超薄型自動巻ムーブメント 現地の時刻を音で知らせるミニット・リピーター、24タイムゾーン表示、現地時刻
直径：	32 mm (基本キャリバー 30 mm、ワールドタイム・モジュール 32 mm)
厚さ：	8.5 mm (基本キャリバー 5.2 mm、カレンダー・モジュール 3.3 mm)
部品総数：	462個
石数：	45石
連続駆動可能時間：	48時間
巻上げローター：	単方向巻上げ式 22金偏心マイクロローター
振動数：	21,600 振動 (片道) / 時 (3 Hz)
テンプ：	Gyromax®
髭ぜんまい：	Spiromax® (Silinvar® 製)
髭持ち：	可動式
表示：	指針： ・時針・分針 (センター)
	表示リング： ・都市表示リング (24の都市名を記載) ・24時間表示リング
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置： ぜんまいの巻き上げ ・引き出した位置： 時刻合わせ
プッシュボタン：	2時位置のタイムゾーン変更用プッシュボタン (1回押すごとに現地時刻を1時間進める)
ミニット・リピーター起動：	ケース左側面のスライドピース
刻印：	パテック フィリップ・シール





外 装

- ケース： 18金ローズゴールド（5N）仕様、
サファイヤクリスタル・バックと通常のケースバックが共に付属
非防水（湿気・埃にのみ対処）
- 寸 法： 直径（10時～4時）：40.2 mm
幅 ：43.83 mm （9時～3時）
長さ：47.35 mm （ラグ～ラグ）
厚さ：12.08 mm （サファイヤクリスタル・ガラス～ラグ）
厚さ：11.49 mm （サファイヤクリスタル・ガラス～ケースバック）
ラグ間隔：21 mm
- 文字盤： ・都市表示リング：洋銀製シルバー・オパール・の地にブラックで都市名を転写
・24時間表示リング：18金ローズゴールド（5N）、昼の部分は数字と太陽のシンボル
を彫刻し、数字はブラウンに着色、夜の部分はブラウンに着色され、数字と月のシン
ボルを彫刻
・文字盤中央：18金ローズゴールド、レマン湖を見下ろすラヴォーの眺望を描いた多
色クロワゾネ七宝装飾
・ファセット仕上げ18金ローズゴールド時・分針、時針はオープンワークを施し、
《南十字星》のフォルムを採用
- バンド： ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーはブリリアン
ト・チョコレートブラウン、18金ローズゴールドの折り畳み式バックル

